

大東文化大学・ACAPコラボレーション講座

2011年前期授業 全13コマを終えて

学生の真剣な授業態度に感激



東京・高島平にある大東文化大学



約180名の学生が授業を履修した



担当教員の中村年春経済学部教授

5月12日に開始した大東文化大学・ACAPコラボレーション講座が、8月4日の授業をもって無事終了いたしました。

経済学部の学生を対象とした「日本の企業社会」と題した授業は、今年度は前期に開催され、当初は4月開始の予定でしたが、東日本大震災の影響により、ゴールデンウィーク明けのスタートとなりました。授業の回数も15コマから13コマに短縮されました。

履修者数は約180名。計13名のACAP会員が講師として登壇し、消費者対応や顧客満足、CSRなどをテーマに授業は行われました。毎回授業終了後にレポート提出が課せられていることもあり、学生の眼差しは真剣そのもの。3年生が中心の授業のため、近い将来、社会に出る学生にとっては企業の最前線の取り組みが聴ける絶好の機会になったものと思います。

担当教員である経済学部・中村年春教授は、今回の講座について、「講義の回数が進むにつれ、講座の狙いがわかってくると、企業活動の中でCS・CSRの取り組みが重要な経営戦略の一環となっていることが理解でき、改めてこの講座の意義を学生は実感しました。聴講に来られたACAP関係者と一緒に受講できたことも学生にとってはよい刺激になりました。」と述べられています。

消費者啓発委員会では、来年度も実施の方向で検討しています。会員の皆様には、講師依頼をさせていただくことがございますので、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

末尾になりましたが、この講座をご担当いただいたACAP会員の皆さま、ありがとうございました。

消費者啓発委員長 ・谷一 暢樹(TOTO)